

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [リンデンホールスクール中高学部] 担当教諭名 [濱田 幸裕] (Grade8 16名)
 相手国・地域 [フィンランド]
 海外学校名 [Kuoppanummen Koulukeskus] 担当教諭名 [Pirjo Leväniemi]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	放課後	アートマイル	約30

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Take Hands, Take Trush & Save The Oceans!
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	まず深刻な海洋汚染の現状を認識し、次に一人一人が出来ることから始め、それを 集団の取り組みに広げ、行政を動かし国際的に連携し、きれいで豊かな海を取り戻 そう！



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
先方(クオッパヌミ中等学校)との連携が上手くできて、課題の共有、テーマの決定、下絵の検討、着色の分担割等がスムーズにできた。	時差の関係で、十分なスカイプ会議の時間確保が難しかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
フィンランドは北欧のどこかの国、という漠然とした認識から、これから未来を共有することになる同世代の若者が生きる場所として、現実感を持つことができ、また協同作業を通して同じ課題を共有できる仲間としての意識を涵養することができた。	非英語圏であるが、連絡は全て英語で行えたことでコミュニケーションツールとしての英語の力を再認識させられた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	スカイプ会議 自己紹介ビデオ作成 日本および地元福岡の紹介ビデオ作成	英語を話せる生徒も多いので、スカイプ会議では積極的に参加していた。	放課後
共有 テーマ学習	9月	メインテーマ SGD's 14 LIFE BELOW WATER についての研究校内ポスターセッション スカイプ会議でのテーマ深化	全体を4グループに分け、プラスチック汚染に関する課題研究を行い、全校生徒を対象としたポスターセッションを実施する課程で、課題の大きさへの理解が深まった。	放課後
融合 メッセージ作成	10月	全体の構成協議 4つの場面と、理想の状態を示す場面の合計5つの下絵作成と情報交換	現状→個人の気づきと行動の始まり →活動の広がりと連携→行政への働きかけと国際的連携→理想とする世界の構築、という流れに沿った下絵を作り上げることができ意欲が高まった。	放課後
創造 壁画制作	11月 12月	作画分担協議 下絵の着色方法協議 作画開始 フィンランドへ発送	下絵の着色過程で、フィンランドの生徒と協力をして分担を協議し、絵心のある生徒がリーダーシップを発揮し、海外および学内での協同作業を通し共助の精神を学んだ。	放課後
評価 振り返り 自己評価	2月	フィンランドより壁画返送 振り返り	成果物を実際に目にし、国境を越えた思いが形になる経験を得ることで、国際理解、国際協力の大切さを自らの経験を通して学ぶことができた。	放課後

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	日本および地元福岡の紹介ビデオの作成を通して。
異文化を理解する力	5	フィンランドから送られてきた国と地域の紹介ビデオの視聴と意見交換を通して。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	プラスチック汚染に関するポスターセッションを通して。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	5	スカイプ会議における積極的な参加を通して。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	双方が作ったプラスチック汚染に関するポスターの内容比較と検討を通して。
主体的に考え行動する力	4	下絵に関する自らの思いと意図を伝えることを通して。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	下絵に関する先方の意見を検討し取り入れることを通して。
思いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	完成した壁画に対する達成感と満足度を通して。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	壁画の作成に関する個々の関与の度合いを振り返らせることを通して。